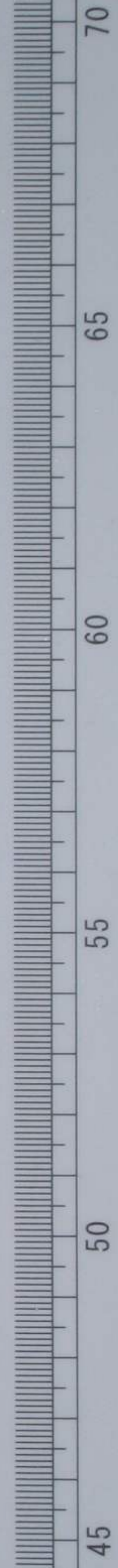
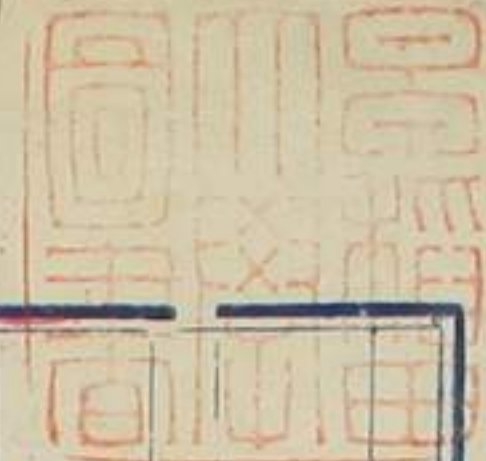


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



四十字  
組

(1)



高深の語の次

鈴木

誤れる傳統の悲哀、それは吾々の心靈が昏  
 睡に陥つた時、永久の神秘と正しき傳統の庇  
 が閉ぢられた時がある。傳統を破壊せよ因襲に  
 囚はるゝな、これは何の時代でも心ある人の覺  
 醒の宣言である。これによつて藝術の革命は属々  
 繰り返される。現代も亦幾多の新人に因つて宣  
 言は叫ばれて居るのであるが、真に祖國の藝術  
 を憂ふるの士と、唯風潮に舞ふる根柢の乏しい浮

傳統の意義

吉川 雪正 著

本間文庫  
文庫 14  
A126



# 哀

草の様な軒佻の士の論議とは、  
嚴密に甄別せらるゝおぼやかない。

由來東洋の思想は、藝術、文學、哲學、宗教、政治等  
に及ぶ迄、凡て傳統に立脚して居る。傳統とは果  
して何人であるか、何が正しき傳統であるか、何が  
誤りの傳統であるか、私は思藝術に於ける傳統の本質的價  
値は、人類が大自然に對して驚異の眼と聞き讃  
歎の聲を擧げ、何ものかの形にうつてそれを  
永久に記念し、つとめる、それが純なる傳統の  
第一歩ではあるまいか、

(2)

心ある人は、常に自然の生命に徹せよと叫ぶ  
自然の生命、それは或一面から觀れば、正しき傳  
統某もの源泉であり、おぼやかない。だから其  
言葉は直に傳統に目醒めよといふこととして  
解釋しても、差支はない。と同時に、墮落せる傳  
統は、其原始的のものに復ること、困つて故は  
るゝ事がある。

釋尊が菩提樹下に成道せられた時、無数の魔  
障が現はれた。これは釋尊の内面生活に於ける  
煩悶苦惱の象徴であらうが、一面に於て誤れる



# 哀

傳統の幻ろしと言ふことも亦よく。釋尊は又  
 過去七佛を説いて傳統の正しきことを説いて居  
 る。又聖書を觀れば、基督が十字架から復活  
 した時、過去の預言者達は悉く其墳の中から復  
 活したとある。又基督は我はアブラハムのあ  
 りし前よりありきと説いて居る。傳統を鮮釋す  
 る上は、其淵源深微の消息ではあるま  
 いか。  
 孔子の思想は、堯舜を祖述し、文武を憲章する  
 にあるのであつから、無偏傳説に我に相違ない

(3)

が、其当時最も破壊思想と言はれ、儒教の方から  
 頌る異端視されたり。老子でも莊子でも、黃帝や其  
 他の太古の聖賢の説を擧げて、自己の説の傳統  
 的に正しきことを説いて居る。  
 如上の人々は、東洋に於ける代表的の大思想  
 家であることは、事新しく言ふ處も無いが、それ  
 が悉く重きと傳統に置て居るのは、頌るに意す可  
 きこととて、東洋の藝術が、佛教或は道教の思想を  
 背景にして發達した密接の關係上、傳統の傳説であ  
 ることは、無論當然の歸結であらねばならぬ。



# 了哀

傳統之我は常に反者と言ふことに於て意我  
 がある。原形に復ると言ふことに於て生命があ  
 る。傳統は保存すべきものでない、傳統の保存は  
 直ちに墮落を意味する、傳統を意味の繰り返  
 しと思つてはならない。正しき傳統は復古であ  
 ると同時に未來である。そこには底歩があり、光  
 明がある。

併し藝術のことは単に抽象的の觀念や論議  
 ばかりでは成り立たぬ。必ずそこは具體化せられ  
 たものが無ければならない。其意味に於て日

(4)

本畫には深遠なる古典的教養を要するのであ  
 る。深遠なる古典的教養に因つて傳統の神秘に  
 觸るゝ。其に真に自然の實相に體達する。日本畫  
 に於ては古典的教養あるものと無いものとは、  
 其結果に非常の差違がある。其教養の無いもの  
 は、古代の優れたる藝術に接しても殆んど風馬  
 牛で一すも解らぬものが多い。偶々サハは解  
 つても、深り處に徹することが出来ず、僅に皮相  
 に止まらうと、ほんの其時だけ、感激に過ぎない。  
 傳統は必ず其來流に至つて墮落する。故から



# 懐

ありと述べた如く、其も其源流に溯るべきは、  
 ぬ、甚き是の第一歩に復るべきは、現代の  
 日本画は、或者はあまりに流派の末に囚はれ過  
 ぎ、又或者はあまりに傳統を重視して居る。併し  
 所謂流派は大部分の氣運に傾いて居る。流派  
 其ものは、多くは真の意味に於ける傳統の跡を  
 であるから、毫も惜むべき理由は在りが、是に  
 代は、可き權威ある真の藝術は、果して如何なる  
 状態であらうか。

江戸  
 徳川時代から繼承した畫風の中、狩野派は、橋

(5)

本邦の藝術界最後の敵將に、強きと氣を配り、  
 かの感がある。が、狩野派其もの精神は、決して  
 滅びたものでは無い。唯其名が消え去ったので、あるも  
 探幽の所に在り、元信、永徳、山樂に復り、雪舟、如拙、周  
 文から、若くは、一歩を進め、宋元の名家へ復るは、そこ  
 には雄渾なる精神が在りて居る。

四條派は、其根柢が通俗的の畫風であるが、  
 に、稍、輕佻の難と免れ、ないが、其派の中にも、相當  
 の覺醒者といふべきは、其派本来の生命であつた  
 寫實の解釋を、一歩深く突入し、あつて、此意に



# 哀

苦心して居る。い。け派は最も洋画と握手する  
 に便宜を有つて居るが、それが果して何の裏面成  
 効するか、け派は古典的修養には後の遠い人  
 達が多い。ふれも舊式の四條派は滅亡に近い。  
 南宗画は之を氣格の高邁と貴び、華墨の雅  
 馴を喜ぶものでなければならぬのであるが、如  
 に一般に行渡つて居る、一種の俗画となつたのは不  
 思議な矛盾である。け派はたゞ併し是は全く  
 顛倒の結果で、深く自然の生命に徹し、遠く乏  
 の古名蹟を味讀する人が出る様子は、為す

(今形式的の旧南畫は已に滅び、新南畫は手に興えとして居る。

(6)

眼見も使の  
つちで、

面白いものがあつたに相違ない。  
 大和繪にまつては、尤も大なる傳統に立脚し  
 て居るものであるが、足利期以前徳川期に至つ  
 て、甚藝術的範圍が狭る局限をた特殊のもの  
 になつて仕舞つたのは、全く非常の墮落で、其真意  
 我と識つた者から見れば、實に一大遺憾と言は  
 なければならぬ。勿論其時代にもそれを慨りて  
 盛人に復古を唱へた一派がある。それは田中訥  
 言、浮田一蕙、岡田高恭、萃の人々であつたが、何  
 か其頃は参考資料に乏しく、僅かに藤原末期あ



# 哀

(7)

たりか、鎌倉時代位の藝術に目醒めたい。けして、大和舞の、本流には徹して居なかつた。

大和舞の研究は其範圍を擴めると、強ひて東洋藝術の根本的研究である。鎌倉、藤原より前、つて平安朝初期、雄略、奈良朝の藝術に及び、白鳳、推古の古蹟を、それと同時に我藝術に深い関係をもつ漢、六朝、唐代の藝術及び印度、朝鮮、波斯西域等の遺品をも研究する。斯くして得たる過去のの正しき傳統は、我が藝術の中に暖かき血液となつて、千々に秘めたる扉を開く。而して古代の

一室の中に

優れたる藝術は、渾然として互に融け合ふ様を親しむ。さうしてそこには不思議な貴き傳統の光を放つ。

猶ほ他に種々の流派はあるが、以上が大體は概括して居ると思ふ。私は前にも述べた如く流派其もの、傳承や保存を唱道するのではな、寧ろ既成の流派の滅亡が正しき傳統に覺醒する一契機であるとする者として居る。忠に用心有る人の大部分は傳統の真意義に目醒め、來た、少くもそれの氣運に向はるとして來た。



# 哀

鴈へ来る可き前途には築煉たる藝術の王國が  
幻の如く見えざるが故にないか、私は終りに斯ふ  
言ふ度い、人は過去の心靈と現在の心靈との存  
在の共鳴が興るとして居るのであると。

(電)